

# 朝日新聞

本紙は昭和十六年四月四日創刊  
発行所 朝日新聞社  
本社 東京都千代田区丸の内一丁目  
電話 丸の内一〇三  
外電 東京六六三  
郵政 郵便共済六三三

## 「鎧袖一觸・電撃戦へ」

### 参事官、武官を除き

#### 獨外交官全部引揚ぐ 危機寸前、バルカンの戦野



（ベルグラード三日T.O.）  
在ベルグラード獨公使館なら  
びに全國の領事館員はフ  
イン参事官および付武官ツ  
サン大佐を除き全部引揚  
命令に接したといはれる。  
獨外交官の一斉引揚げに對  
し未だ反響は言れないが、  
ツサン大佐はチエコ合併の  
際にも同様チエコ首府ブラ  
グに最後まで踏み止つて  
必要な措置をとつた勇士で  
あり、今回も最後までベル  
グに立ち止まることゝなつた。  
（ワグネル二日T.O.）ハン  
ガリ新報はユーゴの内外情  
勢は極度に悪化して、ユー  
ゴの存続は危殆に瀕してゐる  
とあり、陛下は閣議を召集し  
て、閣議の軍機を決定して  
處へてゐる。



（上）敵陣間近し（下）トラツク  
に便乗募進 江南戦線  
Em cima - aproximadamente apostado inimiga. Em baixo -  
Avançando em camuflados (Fotografia de Kiang-Nan)

### 避難を通告

（ベルグラード三日T.O.）中  
立國公館に  
（ロンドン二日T.O.）瑞西側  
訪伊の噂さ  
（ロンドン二日T.O.）瑞西側  
訪伊の噂さ

### 一日千秋の思ひ

（ワグネル二日T.O.）英米兩國  
國民、重大聲明を待望  
（ワグネル二日T.O.）英米兩國  
國民、重大聲明を待望

### 英米極東軍の首腦

（ワグネル二日T.O.）英米兩國  
共同防衛案を合作か  
（ワグネル二日T.O.）英米兩國  
共同防衛案を合作か

### 再び歡呼を浴び

（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ  
（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ

### 法王自らお出迎ひ

（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調  
（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調

### 伯林訪問か

（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び  
（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び

### 左黨に脅威

（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶  
（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶

### 總力戦研究所

（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る  
（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る

### 別離の晩餐

（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す  
（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す



帝國海軍の威容 太平洋を渡る  
A maninha imperial na defesa do Pacifico

## 世界新秩序を推進

### 歴史的な重大意義

（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ  
（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ

### 再び歡呼を浴び

（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ  
（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ

### 法王自らお出迎ひ

（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調  
（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調

### 伯林訪問か

（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び  
（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び

### 左黨に脅威

（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶  
（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶

### 總力戦研究所

（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る  
（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る

### 別離の晩餐

（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す  
（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す

### 再び歡呼を浴び

（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ  
（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ

### 法王自らお出迎ひ

（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調  
（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調

### 伯林訪問か

（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び  
（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び

### 左黨に脅威

（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶  
（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶

### 總力戦研究所

（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る  
（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る

### 別離の晩餐

（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す  
（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す

### 再び歡呼を浴び

（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ  
（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ

### 法王自らお出迎ひ

（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調  
（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調

### 伯林訪問か

（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び  
（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び

### 左黨に脅威

（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶  
（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶

### 總力戦研究所

（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る  
（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る

### 別離の晩餐

（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す  
（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す

### 再び歡呼を浴び

（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ  
（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ

### 法王自らお出迎ひ

（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調  
（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調

### 伯林訪問か

（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び  
（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び

### 左黨に脅威

（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶  
（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶

### 總力戦研究所

（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る  
（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る

### 別離の晩餐

（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す  
（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す

### 再び歡呼を浴び

（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ  
（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ

### 法王自らお出迎ひ

（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調  
（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調

### 伯林訪問か

（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び  
（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び

### 左黨に脅威

（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶  
（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶

### 總力戦研究所

（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る  
（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る

### 別離の晩餐

（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す  
（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す

### 再び歡呼を浴び

（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ  
（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ

### 法王自らお出迎ひ

（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調  
（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調

### 伯林訪問か

（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び  
（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び

### 左黨に脅威

（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶  
（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶

### 總力戦研究所

（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る  
（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る

### 別離の晩餐

（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す  
（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す

### 再び歡呼を浴び

（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ  
（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ

### 法王自らお出迎ひ

（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調  
（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調

### 伯林訪問か

（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び  
（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び

### 左黨に脅威

（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶  
（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶

### 總力戦研究所

（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る  
（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る

### 別離の晩餐

（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す  
（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す

### 再び歡呼を浴び

（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ  
（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ

### 法王自らお出迎ひ

（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調  
（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調

### 伯林訪問か

（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び  
（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び

### 左黨に脅威

（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶  
（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶

### 總力戦研究所

（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る  
（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る

### 別離の晩餐

（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す  
（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す

### 再び歡呼を浴び

（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ  
（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ

### 法王自らお出迎ひ

（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調  
（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調

### 伯林訪問か

（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び  
（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び

### 左黨に脅威

（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶  
（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶

### 總力戦研究所

（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る  
（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る

### 別離の晩餐

（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す  
（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す

### 再び歡呼を浴び

（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ  
（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ

### 法王自らお出迎ひ

（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調  
（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調

### 伯林訪問か

（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び  
（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び

### 左黨に脅威

（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶  
（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶

### 總力戦研究所

（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る  
（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る

### 別離の晩餐

（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す  
（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す

### 再び歡呼を浴び

（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ  
（ワグネル二日T.O.）イタリヤ  
外相愈よ歸途へ

### 法王自らお出迎ひ

（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調  
（ワグネル二日T.O.）法王を  
都下紙一齊に強調

### 伯林訪問か

（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び  
（ワグネル二日T.O.）外務省  
歸途再び

### 左黨に脅威

（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶  
（ワグネル二日T.O.）重慶政府  
海上運輸社絶

### 總力戦研究所

（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る  
（東京二日T.O.）總力戦研究  
新入生卅六名決る

### 別離の晩餐

（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す  
（ワグネル二日T.O.）松岡外  
大使館で催す







### 農家にも罪あり 生産品は 揃えて賣れ!

## 羊頭狗肉の數々 五割以上も儲ける仲間業者

### 聖市食糧統計課長は語る

概観、本市食糧統計課の所管統計課の存在は余り多くの人に知られていないが、それは同課が市の中心から離れた中央市場隣接建物内にあり、食料品の検査をして仲介業者の暴利取締りといふ大切な役目を果たして居ることは、食料品の市場取引を公表する「市場取引」の裏面に、その詳細が記されている。食料品の市場取引を公表する「市場取引」の裏面に、その詳細が記されている。食料品の市場取引を公表する「市場取引」の裏面に、その詳細が記されている。

## 暴利お目付け

## キロ二百五十ミル也 大當りセボラ種子

### ホクノ南大河邦人

## 分散移民から 朗は

南大河邦人の移住を促すため、セボラ種子の供給が重要である。南大河邦人の移住を促すため、セボラ種子の供給が重要である。南大河邦人の移住を促すため、セボラ種子の供給が重要である。

## 新刑法の起草者 アルカンタラ教授逝く

### 政界、法曹界に輝けるその生涯

法律学の権威として知られたアルカンタラ教授は、政治界でも活躍した。法律学の権威として知られたアルカンタラ教授は、政治界でも活躍した。法律学の権威として知られたアルカンタラ教授は、政治界でも活躍した。

## マカコ・ヴェーリヨ物語

## 富岡漸といふ男(一)

### 輪湖俊午郎

マカコ・ヴェーリヨといふ名は、富岡漸といふ男の物語である。マカコ・ヴェーリヨといふ名は、富岡漸といふ男の物語である。マカコ・ヴェーリヨといふ名は、富岡漸といふ男の物語である。

## 街の探偵頭張れ!

南米へ逃走したヤンキー白浪 捕へたら五十コトの賞金

南米へ逃走したヤンキー白浪 捕へたら五十コトの賞金。南米へ逃走したヤンキー白浪 捕へたら五十コトの賞金。南米へ逃走したヤンキー白浪 捕へたら五十コトの賞金。

## 陸祭の典

南米陸上 六日間に亘る豪華な繪巻 呼び物「軍隊競技」

陸祭の典 南米陸上 六日間に亘る豪華な繪巻 呼び物「軍隊競技」。陸祭の典 南米陸上 六日間に亘る豪華な繪巻 呼び物「軍隊競技」。

## 日本仕込みの腕前披露 四百米の峰君コーチ行脚

### モヂアナ線體協八支部地方へ

日本仕込みの腕前披露 四百米の峰君コーチ行脚。日本仕込みの腕前披露 四百米の峰君コーチ行脚。日本仕込みの腕前披露 四百米の峰君コーチ行脚。

## 凱歌は軍へ! 對バストス交歓野球

### マキノ線突破さる

凱歌は軍へ! 對バストス交歓野球。マキノ線突破さる。凱歌は軍へ! 對バストス交歓野球。マキノ線突破さる。

## 自の魂

自の魂 後には法律家としての立場から、自の魂 後には法律家としての立場から、自の魂 後には法律家としての立場から。

## 都會に出て

都會に出て 子供を學校に入れたい方 働きたい方。都會に出て 子供を學校に入れたい方 働きたい方。

## 平井格次

平井格次 市ビトリヤ三四〇 電話四一九三八。平井格次 市ビトリヤ三四〇 電話四一九三八。

## 信愛洋裁技藝學校

信愛洋裁技藝學校 指導 校長 笠原正太郎 兼 市ビトリヤ一五七。信愛洋裁技藝學校 指導 校長 笠原正太郎 兼 市ビトリヤ一五七。

## 大阪商船 發着廣告

大阪商船 發着廣告 ありぞな丸 四月十二日 ありぞな丸 四月十四日。大阪商船 發着廣告 ありぞな丸 四月十二日 ありぞな丸 四月十四日。

船名	目的地	發着日
ありぞな丸	サンパウロ	四月十二日
ありぞな丸	サンパウロ	四月十四日
ありぞな丸	サンパウロ	四月十六日
ありぞな丸	サンパウロ	四月十八日
ありぞな丸	サンパウロ	四月二十日
ありぞな丸	サンパウロ	四月二十二日
ありぞな丸	サンパウロ	四月二十四日
ありぞな丸	サンパウロ	四月二十六日
ありぞな丸	サンパウロ	四月二十八日
ありぞな丸	サンパウロ	四月三十日

伯國大阪商船會社 伯國大阪商船會社 伯國大阪商船會社。伯國大阪商船會社 伯國大阪商船會社 伯國大阪商船會社。

都會に出て 子供を學校に入れたい方 働きたい方。都會に出て 子供を學校に入れたい方 働きたい方。

Ótica GARCIA 各種眼鏡 豐富在庫。Ótica GARCIA 各種眼鏡 豐富在庫。







## Continúa a retirada de italianos e alemães da Iugoslavia

### O pessoal do corpo diplomático alemão naquele país recebeu instruções para abandonar o território iugoslavo — Esperada para hoje a declaração iugoslava — Fechada a fronteira iugoslava com a Hungria

BERLIM, 2 (T. O.) — Divulgando informações procedentes de Graz, a "D. N. B." diz que es-fugitivos italianos e alemães continuam afluindo àquela cidade, em trens especiais e que esses elementos foram hostilizados pela população sérvia. em Marburgo as manifestações anti-alemãs atingiram pontos culminantes. A todos os excessos a polícia tem assistido impassível, sem tomar qualquer providência.

BERLIM, 3 (T. O.) — Segundo fontes bem informadas o pessoal da embaixada alemã nesta capital bem como de todos os consulados existentes no país acaba de receber instruções de Berlim, no sentido de abandonar no dia de hoje o território iugoslavo. Continuarão, representando os interesses da Alemanha, apenas os encarregados de negócios e os adidos militares. Nos círculos políticos desta capital ainda não foi possível colher comentário qualquer sobre esse assunto. Entre as pessoas que ficarão em Belgrado acha-se o encarregado de negócios, o conselheiro de embaixada, dr. Feine, e o adido militar, coronel Toussaint, que durante a crise tcheca, desempenhava idênticas funções em Praga. Ambos os senhores permanecerão residindo no edifício principal da embaixada, situado na Krunks Uliza, 33.

ESPERADA PARA HOJE A DECLARAÇÃO IUGOSLOVENA

BERLIM, 2 (T. O.) — O vice-presidente do Partido Agrário Croata, sr. Koschutisch, que regressou hoje de manhã a Belgrado, juntamente com os três croatas membros do gabinete, Smoljan, Andrés e Schutej, celebrou imediatamente após sua chegada conferências com vários membros do governo. Nos círculos políticos considera-se provável que o governo iugoslavo faça hoje à noite a tão esperada declaração sobre política interna e externa da Iugoslávia. É grande a ansiedade em todo o país.

BERLIM, 2 (T. O.) — De parte competente informa-se que as representações diplomáticas neutras receberam indicações para se transferirem, em caso de agravamento da situação, para um balneário a uns 200 quilômetros de Belgrado. Trata-se do balneário sérvio de Banja. Ao que parece os membros das legações insistem porém, em permanecer em Belgrado.

BUDAPEST, 2 (T. O.) — A imprensa desta cidade considera hoje a situação iugoslava, tanto interna como externamente, de maneira bem pessimista e, alguns diários acreditam não ser impossível que o assunto seja regularizado pelas armas.

LONDRES, 3 (U. P.) — A rádio-emissora suíça transmitiu uma notícia, emanada de Budapest, segundo a qual "o primeiro ministro iugoslavo, sr. Simovitch e o segundo vice-primeiro ministro, sr. Juovanovitch, dirigiram-se, hoje à noite, à Roma, após se ter estabelecido, como vice-primeiro ministro, um contacto diplomático direto entre a Itália e a Iugoslávia."

BERLIM, 3 (U. P.) — O correspondente do "D. N. B.", em Szeged, informa que a Iugoslávia fechou sua fronteira com a Hungria, sendo que as fortificações iugoslavas dessa fronteira foram guardadas com efetivos de tempo de guerra.

OS CROATAS PARTICIPARÃO DO GOVERNO CHEFIADO PELO GENERAL SIMOVITCH — A DECLARAÇÃO DO GOVERNO IUGOSLAVO

BERLIM, 3 (U. P.) — Como resultado da reunião realizada ontem à noite pelo Gabinete, segundo as esferas geralmente bem informadas, ficou assegurada a participação dos croatas no novo governo presidido pelo general Simovitch.

Apesar de não ter sido expresso em um comunicado, uma vez terminada a reunião, admite-se, autorizadamente, que o novo governo acordou:

1 — Garantir a vigência do acordo sérvio-croata de 1938;

2 — Desenvolver uma política pacífica;

3 — Aprovar em princípio a criação de um Conselho da Coroa, integrado por três membros e dar uma forma definitiva a esta proposta formulada pelos croatas, tão pronto se observe melhoria na situação geral.

Nas atuais circunstâncias, parece não existir quaisquer obstáculos que impeçam a participação do líder croata, sr. Matiro.

Admite-se também que em sua reunião de ontem à noite o Gabinete discutiu a declaração que formulará num futuro próximo, possivelmente amanhã, uma vez que se tenha solucionado totalmente o problema croata, a respeito de sua política exterior.

Nas esferas autorizadas opinava-se que o governo da Iugoslávia espera conhecer a reação alemã quando as autoridades berlinesas tiverem as informações do embaixador alemão em Belgrado, sr. von Heeren, quem, antes de deixar esta capital foi detalhadamente informado sobre a política exterior da Iugoslávia pela palavra do chanceler Nincic.

Aguarda-se com sumo interesse a recepção de notícias do ministro iugoslavo em Moscou, sr. Gavrilovitch, particularmente a respeito da questão se a Rússia se dispõe a formar um bloco neutro juntamente com a Iugoslávia e a Turquia.

## O sr. Matsuoka deixou Roma de volta ao Japão

### Aclamação popular — Visitas realizadas — O ministro nipônico foi recebido pelo Papa — Comentários dos jornais japoneses — O que escreve o sr. Virgínio Gayda



CONDE CIANO



MINIST. MATSUOKA

ROMA, 3 (S.) — O sr. Matsuoka, ministro do exterior do Japão, deixou, de volta ao seu país, a capital do governo italiano. O conde Ciano, ministro dos negócios estrangeiros da Itália, à hora da partida do trem dirigiu-se à "Villa Madama", onde encontrava-se hospedado o sr. Matsuoka, saindo, em seguida, acompanhado do ilustre hóspede, em demanda à estação ferroviária. Grande multidão aglomerava-se ao longo de todo o trajeto por que devia passar o ministro japonês até a estação, afim de testemunhar mais uma vez, as estreitas relações de amizade existentes entre o povo italiano e o povo japonês e homenagear o representante do Japão, nação amiga e aliada das potências do "eixo". Acompanhavam o sr. Matsuoka, o ministro secretário do Partido Fascista, membros do governo, o embaixador da Alemanha e outras mais destacadas autoridades políticas. Após as despedidas protocolares, o ministro japonês foi aclamado por grande massa popular, que continuou aclamando-o até a partida do trem. O sr. Matsuoka, apresentou suas últimas despedidas ao povo italiano, fazendo a saudação fascista.

CIDADE DO VATICANO, 2 (T. O.) — S. S. o Papa concedeu uma audiência ao ministro Matsuoka, da pasta do Exterior do Japão. O titular nipônico e sua comitiva foram transportados às nove horas, de "Villa Madama", por três carros do Vaticano, que o levaram ao salão Clementino, onde se encontravam os seminaristas japoneses, que estudam em Roma. O ministro Matsuoka foi saudado por um sacerdote japonês, em sua língua. Em seguida, foi acompanhado à biblioteca pontifical, por um camareiro secreto. Ali esperava S. S., que lhe fez entrega de uma medalha de ouro de seu pontificado. A conferência durou mais de uma hora. Momentos depois, o ministro apresentou seus acompanhantes a S. S., fazendo uma visita ao Cardinal Maglione, secretário de Estado. Após três quartos de hora de palestra, o ministro japonês deixou o Vaticano, às 11,30 com o cerimonial costumeiro. Pouco depois, o Cardinal Maglione deu uma visita que fora feita.

TOKYO, 3 (S.) — Os jornais japoneses dão grande relevo à entrevista de Matsuoka em Roma. O "Asahi" salienta principalmente os colóquios que o ministro do exterior japonês, teve com o "duce" e afirma que a mesma aumentou a compreensão recíproca entre os dois países e reforçou os laços de amizade entre os dois povos.

TOKYO, 3 (S.) — Comentando a entrevista havida entre o Santo Padre e o sr. Matsuoka, o jornal "Asahi" salienta que, durante a mesma, foi discutida a questão das missões católicas na Ásia.

ROMA, 3 (U. P.) — O ministro das Relações Exteriores do Japão, sr. Matsuoka, ofereceu, ontem, na sede da embaixada nipônica, um banquete de despedida, ao qual assistiram o conde Ciano e todos os embaixadores e ministros dos países signatários do pacto tripartite, assim como o ministro da Iugoslávia, sr. Mirko Christic.

esperava S. S., que lhe fez entrega de uma medalha de ouro de seu pontificado. A conferência durou mais de uma hora. Momentos depois, o ministro apresentou seus acompanhantes a S. S., fazendo uma visita ao Cardinal Maglione, secretário de Estado. Após três quartos de hora de palestra, o ministro japonês deixou o Vaticano, às 11,30 com o cerimonial costumeiro. Pouco depois, o Cardinal Maglione deu uma visita que fora feita.

TOKYO, 3 (S.) — Os jornais japoneses dão grande relevo à entrevista de Matsuoka em Roma. O "Asahi" salienta principalmente os colóquios que o ministro do exterior japonês, teve com o "duce" e afirma que a mesma aumentou a compreensão recíproca entre os dois países e reforçou os laços de amizade entre os dois povos.

TOKYO, 3 (S.) — Comentando a entrevista havida entre o Santo Padre e o sr. Matsuoka, o jornal "Asahi" salienta que, durante a mesma, foi discutida a questão das missões católicas na Ásia.

ROMA, 3 (U. P.) — O ministro das Relações Exteriores do Japão, sr. Matsuoka, ofereceu, ontem, na sede da embaixada nipônica, um banquete de despedida, ao qual assistiram o conde Ciano e todos os embaixadores e ministros dos países signatários do pacto tripartite, assim como o ministro da Iugoslávia, sr. Mirko Christic.

## Conferenciaram em Manilha as mais altas autoridades militares inglesas e americanas do Extremo Oriente

### Planos anglo-americanos de defesa "contra qualquer agressão"

MANILHA, 2 (U. P.) — As mais altas autoridades das forças armadas britânicas e norte-americanas destacadas no Extremo Oriente, realizaram hoje uma prolongada conferência nesta cidade, conferência essa à qual se atribue grande importância, relacionando-a aos planos de defesa anglo-americanos destinados à resistência contra qualquer agressão por parte de um membro qualquer do "eixo" naquela parte do mundo.

O chefe das forças aéreas britânicas, marechal "sir" Robert Brooke Popham e o comandante em chefe das forças imperiais no Extremo Oriente, major-general Richard Ewing, acompanhados de outros altos chefes militares britânicos, chegaram, hoje, à base naval norte-americana de "Cavite" em um hidro-avião quadrimotor.

É esta a primeira vez que um avião militar britânico desce em Manilha, pois até agora não existia tal permissão. Um ajudante de ordens do almirante Thomas Charles Hart, comandante em chefe da esquadra norte-americana em águas asiáticas, cumprimentou os visitantes, os quais se puseram imediatamente em contacto com altas patentes estadunidenses.

O almirante Hart também encontrava-se em "Cavite" afim de receber os militares ingleses, sabendo-se, outrossim, que o governador geral da União das Filipinas, Francis Hayre, que se encontra em Bagio, via-

jou para esta capital, afim de tomar parte nas conversações militares.

Diz-se que "sir" Brooke Popham conferenciou com as altas autoridades das Índias Orientais Holandesas, em Batavia, antes de ir a Manilha. Assim, pois, as conferências do almirante Hart abrangem — supõe-se — todo o panorama da defesa no Extremo Oriente, visando o estabelecer uma ampla cooperação entre a Grã Bretanha e os Estados Unidos e as forças holandesas que estão sob a jurisdição do governo holandês refugiado em Londres.

Falando ao representante da "United Press" o almirante Hart declarou: "O marechal Ar "sir" Brooke não veio visitar-me. Não me é possível formular nenhum comentário a respeito de sua chegada a esta, o mesmo acontecendo em relação aos demais visitantes". Não obstante a resposta evi-

dentemente evaziva do almirante Hart, é opinião generalizada nos meios autorizados desta cidade, que a conferência assume, nestes momentos, uma "importância enorme."

"VISITA DE CORTESIA"

MANILHA, 2 (T. O.) — Procedente de Singapura, chegou de surpresa, a esta cidade, de hidro-avião, o marechal britânico do Ar, "sir" Robert Brooke Popham, o qual celebrou uma conferência de três horas com o chefe da frota norte-americana do Pacífico, vice-almirante Thomas C. Hart. Essas conversações foram assistidas pelo alto comissário lanqui nas Filipinas, sr. Francis B. Sare. Fontes oficiais alegaram tratar-se de "uma visita de cortesia". Brooke Popham aqui permanecerá até sexta-feira, quando deverá prosseguir viagem para Hong-Kong.

## As forças teuto-italianas ocuparam Agedabia

LONDRES, 3 (U. P.) — Urgente. — A Rádio de Berlim anuncia que as forças italo-alemãs ocuparam Agedabia, na Cirenaica.

LONDRES, 3 (U. P.) — Nos círculos estrangeiros bem informados diz-se que três divisões

alemãs iniciaram a ofensiva do "eixo" na fronteira ocidental da Cirenaica.

Declara-se que Hitler cedeu, a título de empréstimo, duas divisões mecanizadas e uma de outra categoria da base alemã instalada em Tripoli.

## A lei seca na China

CHUNGKING, 2 (T. O.) — Noticiou-se, hoje, que nas províncias chinesas de Kwangsi, Hupeh e Honan, foi imposta a lei seca. Essa medida foi justificada pela necessidade de se abastecer a população com os materiais usados na fabricação de aguardentes. Comente as bebidas alcoólicas na China são fabricadas a base de arroz.

## Ainda a Tailândia

TOKYO, 2 (T. O.) — O diário "Tokyo Asahi Shimbun" escreveu na sua edição desta manhã que por informações recebidas crê saber que o ministro presidente tailandês, — provavelmente depois que regressar ao Japão o sr. Matsuoka —, realizará uma viagem a esta capital afim de entrevistar-se com o ministro do exterior nipônico. Essa viagem teria como finalidade a troca de impressões de suma importância visto que a viagem do sr. Matsuoka à Europa afeta também os interesses do Extremo Oriente. Entretanto até o presente Bangkok nada fixou de definitivo a este respeito.

O noticiário telegrafico publicado pelo "BRASIL ASAHI" é fornecido pelas agências: "Nacional" (A. N.) brasileira, "Domei" (D.), japonesa, "United Press" (U. P.), norte-americana, "Stefani" (S.), italiana e "Transocean" (T. O.), alemã.

Calcula-se que a totalidade dessa força eleva-se a 45.000 soldados. Acrescenta-se que o Reich resolveu enviar suas tropas à África do Norte com o propósito de impedir o prosseguimento da ofensiva inglesa na Tripolitânia.

## A GUERRA TOTAL SERÁ ESTUDADA EM UM INSTITUTO ESPECIAL DE TOKYO

TOKYO, 2 (D.) — O Instituto de Pesquisas da Guerra Total, desde a sua inauguração a 1 de Outubro do ano passado, vinha realizando estudos preliminares para o início do seu funcionamento. Tendo terminado quasi todos os preparativos, realizou, ontem, na residência do primeiro ministro, a solenidade de entrada dos estudantes. Estes são jovens escolhidos de todos os círculos oficiais e particulares e receberão, durante um ano, importantes instruções sobre a guerra pelas armas, guerra ideológica, econômica, e sobre política interna e externa, necessárias para uma guerra total. O número total de estudantes ora admitidos é de 36.

## Casal de alemães preso em Cuba por suspeita de espionagem

CAMAGUEY, 3 (U. P.) — A polícia deteve o cidadão alemão Otto Brencourt e a esposa deste por suspeita de espionagem. As autoridades policiais estão procedendo ao exame dos documentos matrimoniais, que chegaram a esta, procedente da região costeira de Cayo Huelmo.



# Entregada a nota-protesto do governo brasileiro pelo ataque ao "Taubaté"

RIO, — O Departamento de Imprensa e Propaganda distribuiu aos jornais a seguinte nota: "O governo brasileiro, após o recebimento do resultado do inquérito a que procedeu o consul

do Brasil em Alexandria, sobre o ataque sofrido pelo navio nacional "Taubaté", confirmando-se que o mesmo foi levado a efeito por um avião alemão, no Mediterrâneo Oriental, com violação do Direito Internacional

e da prática entre as nações, resolveu protestar contra esse ato e reclamar do governo alemão as reparações de ordem moral e legal. A nota de protesto foi entregue à embaixada da Alemanha desta capital. S. Excia.

o sr. Presidente da República, ao tomar conhecimento do inquérito, determinou que fossem concedidas vantagens especiais às famílias das vítimas, bem como aos feridos".

# Novas aquisições da industria siderurgica nacional Os bancos gauchos cooperam com 1.500 contos — Contribuições dos municipios do norte do país

PORTO ALEGRE, 2 — Os estabelecimentos bancários do Estado, em face do apelo que lhes foi dirigido pelo sr. Guilherme Guinle, por intermédio do sr. Victor Bastian, diretor do Banco da Província, resolveram destinar a soma de 1.500:000\$00 para aquisição de ações da Companhia Nacional de Siderurgia.

altamente simpática nesta capital, esperando-se que numerosas outras empresas e particulares adquiram, desde logo, essas ações, quando as mesmas forem expostas à venda. RIO BRANCO, 2 — Correspondendo ao apelo do sr. Mário de Freitas Guimarães, prefeito de Santarém, no Estado do Pará, no sentido de que to-

dos os municípios brasileiros adquiram ações da Companhia Siderurgica Nacional, o governador Epaminondas Martins determinou que todos os municípios acreanos, contribuam, para compra de tais ações, com a importância de 2:000\$000 cada um.

# Irregularidades denunciadas pela comissão de controle do cambio no Chile

### Solicitada a prisão de um ex-candidato presidencial

SANTIAGO DO CHILE, 3 (U. P.) — O juiz Roberto Sahr solicitou à polícia argentina a detenção do ex-candidato presidencial chileno de 1938, sr. Gustavo Ross, que era o candidato das direitas, para atender ao andamento do processo, que se está formando com relação a supostas irregularidades denunciadas pela Comissão de Controle do Câmbio.

leno está baseada nas declarações do Banco de Londres para a América do Sul, sr. Hugh Jackson. BUENOS AIRES, 3 (U. P.) — Entrevistado pelo correspondente da "United Press", o ex-candidato presidencial chileno, sr. Gustavo Ross, a respeito de um pedido de detenção e traslado que partiu do juiz de Santiago do Chile, sr. Roberto Sahr, afirmou que lhe era estranha

tal medida, pois que ignorava estar sob processo, a menos que nele tomasse parte como testemunha. Adiantou o sr. Ross que lhe parecia singular o procedimento do juiz Roberto Sahr já que no caso de lhe ter sido indicada a conveniência de se transportar a Santiago, assim o procederia, sem a necessidade de um pedido à polícia argentina, para tanto.

# O Secretário da Agricultura do Rio Grande do Sul é homenageado em Montevideo

MONTEVIDEO, 2 — O secretário da Agricultura do Estado brasileiro do Rio Grande do Sul atualmente nesta capital, visitou a sede da Faculdade de Agronomia e da Câmara de Comércio Uruguaio-Brasileira.

Em seguida compareceu a um almoço oferecido em sua homenagem pela comissão diretora da mencionada Câmara de Comércio.

Estiveram presentes à homenagem o ministro da Agricultura no Uruguai e o embaixador do Brasil e outras altas personalidades brasileiras e uruguaias.

# A CONFRATERNIZAÇÃO DE TODOS OS POVOS DA AMERICA

Quando se reuniu, o ano passado, em Santa Fé, a Quinta Conferência Nacional de Advogados, promovida pela Federação Argentina de Advogados, instituição análoga aos nossos Institutos da Ordem dos Advogados, foi adotada, unanimemente, a resolução de não se poder referir aos delegados dos países americanos, ali representados, tratando-os de "estrangeiros", não se fazendo referência, igualmente, às leis, ou instituições desses países qualificados de "estrangeiros", mas denominando-se, sempre, tais leis e tais instituições, de "americanas".

Agora, por ocasião da celebração das sessões do Congresso de Criminologia, que acaba de reunir-se em Santiago do Chile, adotou-se deliberação idêntica, pela qual tudo o que se refere aos países do Continente americano não teve, ali, a classificação de estrangeiro, mas de homens e coisas "dos países vizinhos".

Essas manifestações de reuniões culturais, na Argentina e no Chile, evidenciam como se vai cristalizando o sentimento de confraternidade dos povos americanos, que embora ciosos de suas soberanias, pensam que as suas fronteiras geográficas não os separam, mas, revés disso, os unem, de modo a constituírem as nações do Novo Mundo um todo homogêneo, com os mesmos comuns objetivos de progresso e de civilização, de desenvolvimento material e de aprimoramento intelectual, cultural e moral. A América dá, neste momento, de tantas angústias, de tantas dores e de tantas apreensões para a Humanidade, o exemplo de como se pode e se deve viver em paz, sob regimes de liberdade e de justiça, cuja ordem jurídica se construiu e se constrói, todos os dias, sob os imperativos do direito e da razão, ao invés de se submeter às imposições da força. No Brasil, na vigência do Estado Novo e sob a orientação do Presidente Getúlio Vargas, a confraternização de todos os povos da América é postulado de nossa política internacional, que o Governo da República faz timbre em proclamar como sendo fundamental da mesma.

# O Brasil será o unico fornecedor de mangangês aos EE. UU.

### e poderá suprir a nação de ferro que fazia a Suécia -- Declarações do Cel. Sousa Aguiar

RIO, 2 — Falando hoje à imprensa, o coronel Sousa Aguiar, recentemente chegado da América do Norte, declarou que são enormes as possibilidades brasileiras para suprir os Estados Unidos de toda a importação de ferro que esse país fazia da Suécia. O Brasil, também na hipó-

tese de qualquer anormalidade na Ásia, acrescentou o coronel Sousa Aguiar, será o único fornecedor de mangangês com que podem contar os EE. UU. Adianta-se que a exportação de minério de ferro, com a construção da E. F. Camapuam-Angra dos Reis, venha a ser cal-

culada em três milhões de toneladas anuais, elevando-se a quinhentas mil toneladas a exportação do minério de mangangês de Lafaiete. A obra exclusiva da adaptação do porto de Angra para embarque de minérios, está orçada em dezesseis mil-

lhões de dólares, sendo o capital cem por cento brasileiro. Adianta-se que a Estrada a que se refere o coronel Sousa Aguiar ligará Camapuam a Lafaiete e Andrelândia, em Minas, sendo, aproveitada a já construída dessa cidade a Angra.

# Falta de generos de primeira necessidade em Hong-Kong

SHANGAI, 3 (T. O.) — As autoridades britânicas de Hong-Kong interditarão a exportação de uma série de mercadorias. Trata-se de vários produtos alimentícios além de ferramentas, couros e borracha. Opinião-se nos círculos econômicos chineses que tal medida foi tomada em consequência da constante diminuição das reservas de tais produtos na colônia britânica de Hong-Kong, oriunda da escassez de meios de transportes marítimos.

# A destruição dos navios do "eixo" refugiados em portos venezuelanos constitui ofensa à soberania nacional Suprimidos os privilegios de asilo pelo governo de Venezuela

CARACAS, 3 (U. P.) — Por motivo da destruição de navios mercantes do "eixo", ocorrida em 31 de Março último, o Ministério das Relações Exteriores emitiu uma declaração pela qual diz que quando as embarcações das potências do "eixo" procuraram refúgio aceitaram as leis venezuelanas e que, por conseguinte, os incêndios dos

navios constituem uma violação da hospitalidade e ofensa à soberania nacional. Acrescenta a referida declaração que como resultado disso o governo retirou os privilégios de asilo e adotou precauções para evitar atos futuros dessa índole, dispondo-se ainda a dar o devido castigo aos culpados.

# Incendiados e postos a pique pela tripulação os navios alemães "Munchen" e "Hermonthis" Desconhece-se a sorte dos tripulantes

LIMA, 3 (U. P.) — O Ministério da Marinha anunciou oficialmente que o cruzador "Almirante Grau" encontrou, esta manhã, o cargueiro alemão "Munchen" que zarpara ontem, incendiado e afundado a umas 200 milhas do porto de Callao, na posição de 11.º de latitude

sul. As 14 horas a referida belonave peruana encontrou o navio "Hermonthis" também incendiado pela tripulação e afundado, a umas 250 milhas de Callao, na posição de 12.º de latitude sul. Os dois barcos, ao que parece, haviam sido abandonados, mas ainda se desconhece a sorte dos tripulantes.

# Demonstração Prática da Política de Boa Visinhança e de Cooperação Panamericana

As notícias da construção da estrada de ferro do Brasil à Bolívia, pela ligação de Corumbá a Santa Cruz de la Sierra, são as mais auspiciosas. Medindo o trecho integral dessa via férrea entre os dois países 680 quilômetros, e não podendo a sua construção ser atacada, toda, de uma só vez, foi a mesma iniciada por etapas, a primeira das quais, tendo por ponto de partida Corumbá, atravessa a fronteira a cerca de oito quilômetros daquele ponto, em demanda de El Carmen, que assinala o quilômetro 100 da estrada. Já ultrapassa de mais de metade do trecho dessa primeira etapa a sua construção, não obstante as dificuldades encontradas pelas turmas de avançamento, que devem vencer e transportar regiões pantanosas, ou cobertas de espessas matas.

extensão alagada, de cerca de trinta quilômetros, entre as bacias dos rios Paraguai e Tucuyaca, que se transforma, periodicamente, em grande banho, devido ao extravazamento desse último curso d'água. Atravessar essa região constituía a obra mais árdua da estrada Brasil-Bolívia, sendo, porém, realizada com absoluto êxito pela comissão construtora brasileira, que lançou a linha sobre estivas, que é o aterro formado por toros de madeira sobre os quais se colocou a terra necessária à constituição do leito da via férrea. O banhado de Otuquia, assim chamado o alagamento dessa região, nunca atinge cota superior a 70 centímetros, sendo, porém, o aterro construído à altura de 1 metro e 50 centímetros, prevenendo-se, por essa forma, qualquer crescimento anormal no nível das suas águas.

a construção de uma oficina de conservação e de reparação do seu material rodante, em Ladário, destinada a ser um núcleo de formação de artifices especializados, no Oeste da República. O Presidente Getúlio Vargas, dando cumprimento ao programa do Estado Novo, vai, como se está vendo, aproximando cada vez mais o nosso país dos povos vizinhos da América. A execução da estrada de ferro Brasil-Bolívia é uma demonstração prática dessa política de boa vizinhança e cooperação panamericana.

# Viagem do sr. João Alberto ao Canadá

### S. Excia. acaba de chegar em Miami

MIAMI, 3 (U. P.) — Chegou a esta cidade o sr. João Alberto, alto comissionado do governo brasileiro, em trânsito para Ottawa, no Canadá.

O sr. João Alberto deverá seguir, antes de encetar a viagem para Ottawa, a Washington e Nova York. Desta última cidade, então, o referido personagem rumará para seu destino, onde deverá chegar no próximo dia 15.

# Gabinete de Investigações Identificações de estrangeiros

Estão sendo chamados para o dia 4, sexta-feira — os identificados de números 76.301 a 76.350; para o dia 5, sábado: 76.351 a 76.400; para o dia 7, segunda-feira: 76.401 a 76.450; a 76.500; para o dia 9, quarta-feira: 76.451 a 76.500; para o dia 10, quinta-feira: 76.501 a 76.550; para o dia 11, sexta-feira: 76.551 a 77.000.

# Homenagem a Bolivar no "Central Park"

WASHINGTON, 3 (U. P.) — O embaixador da Venezuela, sr. Escalante, e o seu colega da Colômbia, sr. Turbay, projetam assistir no sábado próximo às cerimônias que serão realizadas no "Central Park", em homenagem a Bolívar.

# Faleceu o conde Teleki, primeiro ministro da Hungria

### O gabinete apresentou renúncia coletiva

BUDAPEST, 3 (U. P.) — Urgente. — Confirma-se oficialmente a morte do primeiro ministro, conde Teleki.

BUDAPEST, 3 (U. P.) — Urgente. — Confirma-se oficialmente que o gabinete húngaro apresentou sua renúncia coletiva, porém, como simples formalidade, continuando em função até que o regente Horthy designe novo presidente do Conselho.

"Ontem à noite, faleceu em trágicas e inesperadas circunstâncias o ministro presidente e conselheiro secreto húngaro, conde Paulo Teleki". Até o momento, não foram divulgados detalhes especiaismente sobre as causas da morte. Afirma-se que também sua esposa teria sido atingida pelas trágicas circunstâncias que ocasionaram a morte ao estadista húngaro.

# Questões turísticas e marítimas estudadas na Comissão Econômica Inter-Americana

WASHINGTON, 3 (U. P.) — O item, vários sub-comitês da Comissão Econômica Inter-Americana estiveram ocupados durante todo o dia, principalmente no estudo das questões turísticas, marítimas e da projetada Convenção do Cacau. Os delegados manifestaram-se com satisfação sobre a sanção do projeto do café.

# O governo lanqui convida os chefes das marinhas sul-americanas para uma visita aos Estados Unidos

NOVA YORK, 2 — Em nome do almirante Harold Stak, chefe das operações navais da Marinha de Guerra dos Estados Unidos, os adidos navais norte-americanos convidaram, hoje, os chefes das marinhas dos países sul-americanos para visitar os Estados Unidos no próximo mês de Maio.



# Controlando a entrada de generos alimenticios nesta capital HISTORIA DOS "MACACOS VELHOS"

## A estatística da Prefeitura beneficia tanto o produtor como o consumidor -- Impedindo a ganancia dos chamados "intermediarios", que revendem as mercadorias pelo dobro do custo

De uma interessante reportagem do "Diario da Noite", extraimos os seguintes topicos:

Poucas, bem poucas pessoas conhecem a Secção de Estatística do Serviço de Abastecimentos da Prefeitura, visto ficar ela em um ponto afastado, a rua da Cantareira, em prédio contíguo ao Mercado Municipal.

Controlando e fiscalizando a procedencia, quantidade, qualidade e preços dos generos alimenticios vindos no interior paulista ou dos Estados vizinhos — impede ela que os chamados "intermediarios" usufruam lucros fabulosos, quiçá criminosos, punidos pela Lei de Defesa da Economia Popular. O referido serviço, ao mesmo tempo que abre os olhos do povo, fornecendo-lhe diariamente a relação fiel das cotações dos alimentos de primeira necessidade vendidos nos Mercados Municipal e de Pinheiros e nos Entrepósitos Municipais — indica a qualidade dos generos,

para que o comprador não "comagato por lebre", ingerindo alimentação prejudicial á saúde.

### INTESSANTES INFORMAÇÕES FORNECIDAS AO "DIARIO DA NOITE"

Avaliando a importancia que essa quasi ignorada estatística tem para o publico, a nossa reportagem foi ontem ouvir sobre a mesma o seu esforçado organizador, sr. Ezequiel Moreira, chefe daquele serviço.

Atendendo amavelmente o reporter, em seu gabinete de trabalho, o sr. Ezequiel Moreira nos disse, de inicio:

### BENEFICIA O PRODUTOR E O CONSUMIDOR

— Essa estatística, que nunca foi feita aqui, beneficia, como vimos, tanto o produtor como consumidor,

obstando que um e outro sejam explorados pelos inescrupulosos "intermediarios".

Estes, em geral, compram na roça, de sitiantes e chacareiros, por preços irrisorios, produtos, que revendem na capital com lucros de 50 a 70 por cento sobre o custo que pagaram.

### EXEMPLIFICANDO A EXORTORÇÃO

— Vejamos, por exemplo, o que se passa em nossa metropole com o abacate, fruta saborosa, que, além de ser um alimento nutritivo, contém outras aprégoadas virtudes. Uma caixa de abacate Manteiga de 1, contendo 6 a 7 dúzias, é vendida aqui a 10\$000 e 11\$000.

No entanto, no varejo; pelos ambulantes, á porta das casas, através da cidade, o abacate é vendido a 3\$000 e 3\$500 a dúzia ou o dobro do seu preço real!

Outro expressivo exemplo: uma

caixa de figo preto, com 7 dúzias, custa de 4\$ e 6\$000. Mas, no varejo, a dúzia do apreciado figo é vendida a 2\$000 e 2\$500.

Essa exorbitancia de preços se verifica anualmente, na ocasião das safras das frutas nacionais, como abacaxi, mamão, laranja, etc.

### A NECESSIDADE DA CLASSIFICAÇÃO

— O resumo de nossos dados estatísticos, com mercadorias classificadas e preços correntes no mercado, é atualmente remetido a pessoas e instituições interessadas, para estudos, relatorios, bem como a jornais da capital, para conhecimento do publico consumidor.

No Brasil, os lavradores que ainda não adoptaram o sistema de classificação dos produtos, preferindo misturar as safras, cometem um grande erro. Não apresentando os tipos uniformizados, classificados, desvalorizam o produto.

# Falecimento do ilustre professor Alcantara Machado

## Dados biograficos do ilustre intelectual brasileiro

O falecimento do prof. Alcantara Machado ocorreu precisamente ás 23 horas de ante-ontem, vitimado por um colapso cardiaco.

Conservou perfeita lucidez de espirito até os ultimos instantes. Poucos minutos antes de falecer, manifestou ao seu filho mais velho as suas ultimas vontades: queria que os funerais fossem simples, não desejava flores nem cores negras. Pediu, além disso, que o inhumassem com a beca de professor da Faculdade de Direito, título de que mais se jatava, por entender que era a missão mais digna e nobre que se podia exercer no Brasil.

Professor de direito, advogado, escritor e politico, o prof. Alcantara Machado era natural de Piracicaba, neste Estado, onde nasceu a 19 de outubro de 1875, sendo filho do prof. Barão Brasilio Augusto Machado de Oliveira e de d. Maria Leopoldina de Sousa Machado de Oliveira, ambos falecidos. Fez seus primeiros estudos na Escola Neutralidade, iniciando seus preparatorios em 1887. Matriculou-se na Faculdade de Direito em 1890, concluindo o curso em 1893, sendo logo nomeado lente substituto da Faculdade e substituído da sexta secção, em 1895. Recebeu grau de doutor aos 20 anos de idade. Em 1915, foi declarado professor substituto da cadeira então denominada Medicina Publica. Em 1925, passou a catedrático da mesma cadeira, substituindo o prof. Amancio de Carvalho.

### NOTAVEL PROFESSOR

Não ha, dentre os contemporaneos do prof. Alcantara Machado, quem não reconheça o valor das aulas que em todo o tempo ministrou. Em 1927, foi nomeado vice-diretor da Faculdade tendo exercido o cargo de diretor desse estabelecimento no periodo de 31 a 35, quando tiveram inicio as grandes reformas por que passou aquele estabelecimento. O prof. Alcantara Machado era membro fundador e presidente da Sociedade de Medicina Legal e Criminologia de São Paulo; fez parte, como elemento destacado, da comissão encarregada de elaborar o projeto do Código do Processo Civil e Commercial do Estado de S. Paulo.

### SUA CARREIRA POLITICA

O ilustre extinto teve uma actividade politica de alto relevo, não só na esfera municipal como estadual e nacional. Iniciou sua carreira publica como vereador á Camara Municipal de São Paulo, ali permanecendo desde 1911 até 1916. Em 1915 foi eleito pelo Partido Republicano Paulista deputado estadual. Nessa casa do Congresso Paulista, seus trabalhos foram notaveis, salientando-se, entre eles, além do Código do Processo, os

de jurista notavel, e homem publico de mais patriótica atuação, um homem de letras do mais alto quilate. Suas obras, muitas e notáveis. Levaram-no á Academia Brasileira de Letras, onde foi eleito para a cadeira de Silva Ramos. Com a morte de Amadeu Amaral, foi levado á presidencia da Academia Paulista de Letras. Como presidente da Faculdade Paulista de Filosofia e Letras, que fundou pouco depois de 1930, imprimiu a esse estabelecimento uma orientação das mais solidas. Presidente do Conselho Superior da Escola de Sociologia e Politica, e membro do Instituto Historico e Geografico Brasileiro, poz em evidencia varios trabalhos notaveis. Na presidencia da Sociedade de Medicina Legal e Criminologia de São Paulo, colocou a prestigiosa organização científica á altura do nosso progresso cultural no que se refere ás ciencias medico-legais e de tecnica policial, criminologica, e penologia. No Conselho Penitenciario do Estado de que tambem era membro presidente, teve destacada influencia e actividade.

### O HOMEM DE LETRAS

O prof. Alcantara Machado, uma das mais fortes e pujantes mentalidades contemporaneas, era, além

de jurista notavel, e homem publico de mais patriótica atuação, um homem de letras do mais alto quilate. Suas obras, muitas e notáveis. Levaram-no á Academia Brasileira de Letras, onde foi eleito para a cadeira de Silva Ramos. Com a morte de Amadeu Amaral, foi levado á presidencia da Academia Paulista de Letras. Como presidente da Faculdade Paulista de Filosofia e Letras, que fundou pouco depois de 1930, imprimiu a esse estabelecimento uma orientação das mais solidas. Presidente do Conselho Superior da Escola de Sociologia e Politica, e membro do Instituto Historico e Geografico Brasileiro, poz em evidencia varios trabalhos notaveis. Na presidencia da Sociedade de Medicina Legal e Criminologia de São Paulo, colocou a prestigiosa organização científica á altura do nosso progresso cultural no que se refere ás ciencias medico-legais e de tecnica policial, criminologica, e penologia. No Conselho Penitenciario do Estado de que tambem era membro presidente, teve destacada influencia e actividade.

Em 1937 coube-lhe coroar a sua actividade de jurista e homem publico com a incumbencia, que lhe conferiu o governo federal de elaborar o projeto de novo Código Criminal Brasileiro, recentemente promulgado.

Dentre as suas numerosas obras publicadas todas em São Paulo

destacam-se: "Do momento da formação dos contratos por correspondencia (1892)"; "A embriaguez e a responsabilidade criminal" (1893); "O hipnotismo" (1895); "A deformidade das lesões pessoais" (1901); "Suicidios na capital de São Paulo" (1905); "Problemas municipais" (1908); "Os honorarios medicos", 2.ª edição de 1922; "Vida e morte do bandeirante" (1929); "O exame pericial do Direito Romano"; "O ensino na periferia"; "Brasilio Machado" (1938); "Projeto do Código Criminal Brasileiro" (1938); "O projeto do Código Criminal perante a critica" (1939), além de discursos, alocuções, pareceres e outros estudos publicados em volumes e em colaborações em numerosas revistas científicas e literarias do país.

### OBRAS INACABADAS

O sr. Alcantara Machado legou ao patrimonio cultural do Brasil varias obras de inestimavel valor. Além das que foram publicadas, entre as quais "Orações Academicas", editada ha poucos dias, no Rio, deixou dois trabalhos por concluir: o primeiro, um ensaio biografico em torno da figura do brigadeiro Machado e o segundo um trabalho de folego sobre a influencia do Tietê na vida social, historica e economica de São Paulo, trabalho este intitulado "Biografia do rio Tietê".

# A cultura de cebola no Rio Grande do Sul

## Os japoneses dos suburbios de Pelotas obtiveram exito na cultura daquela planta

A cidade de Pelotas, no Rio Grande do Sul, é conhecida como centro de distribuição da cebola. Nos suburbios daquela cidade residem quatro familias japonesas — Nakamura, Sudo, Matsumura e Hoshiko — que formam, por assim dizer, a vanguarda dos imigrantes japoneses que se dispersam pelo Brasil todo. A produção da cebola, este ano, não foi grande, devido ao excesso de chuva, mas em compensação o preço esteve a 1\$100 o quilo. A semente de cebola custa 350\$000 por quilo, ou sejam quasi o triplo do preço do ano passado. Os japon-

ses produziram 100 a 200 quilos por familia. O sr. Nakamura, que se encontra nesta capital para vender semente de cebola, nos declarou o seguinte:

"Houve muita chuva este ano e a cebola não teve boa colheita. Pudemos entretanto colher 200 quilos de sementes de cebola e 60 toneladas de cebolas. Além disso plantamos tambem batata, tomate, etc. A área para cultivar cebola não passa de 2 alqueires e meio.

— "Mas isso é ter muito lucro, por tão pouca terra!", dirão os srs. mas é necessário

advertir a todos aqueles que vão atrás da sorte que com tal espirito jamais conseguirão alcançar exito na agricultura. Nos entramos naquela região por intermédio da "Kaikô". No periodo da chuva passamos por inúmeras dificuldades. Muitos desistem e fogem. Mas as familias grandes, — condição necessária para se dirigir áquella parte, onde difficilmente se encontram camaradas — com vontade de vencer e animadas de espirito estudioso podem obter exito na certa e gozar a "vida pela terra", como em nenhuma outra localidade".

## Sussumu Tomioka, um dos pioneiros da imigração japonesa no Brasil

por S. Wako

"Macaco Velho" é o nome dado aos primeiros colonizadores japoneses. Essa expressão é usada com muita simpatia pelos elementos da colonia. Os "macacos velhos" não aparecem na "Historia da Imigração" muitas vezes, mas não se pode deixar de reconhecer a sua grande colaboração no atual desenvolvimento da imigração, tendo sido mesmo a pedra angular do progresso em que se acham os japoneses de hoje. Os "macacos velhos" estão indo já, quasi todos, para o mundo do além, mas os seus nomes jamais deverão ser esquecidos. É por essa razão que, fazemos essas referências.

Os primeiros colonizadores, em geral, não têm sido felizes em suas iniciativas. Isso se dá naturalmente, devido ao caracter do trabalho que nem sempre traz riquezas aos mais sagazes. Com o sr. Sussumu Tomioka deu-se o mesmo. Ele foi o iniciador da cultura de arroz no Estado de Minas, tendo-se dedicado em seguida á exportação de cristais. Cuidou tambem da colonização do Estado de Espi-

rito Santo e ultimamente esteve no Rio Grande do Sul, mas tambem não foi feliz. Assim chegou aos dias presentes. A Historia da Imigração não deve ser escrita somente sobre os homens e fatos da actualidade. Assim, para nos inteirarmos sobre a pessoa do sr. Tomioka, devemos falar nos seus ancestrais. Sussumu Tomioka nasceu em 1887 na provincia de Yamanashi, sendo descendente de barões.

Seu pai que se chamava Fukki, era major da artilharia, mas um dia quando cavalgava, sofreu uma queda, fraturando a caça. Depois desse acidente ele teve que deixar o serviço. O avô de Sussumu Tomioka, de nome Keimeí, pertencia ao feudo Nabeshima e na época da Restauração de Meiji colaborou com Shimpei Eto. No ano de 1874 ou 75 foi nomeado o primeiro governador da provincia de Yamanashi. Tendo, após a sua nomeação, havido uma greve dos lavradores, mandou degolar nove dos seus chefes. Diz-se que foi essa a ultima execução desse tipo havida no Japão. O avô Keimeí passou para

Hokkaido afim de se dedicar á colonização daquelas regiões. Isso foi no ano de 1876. No caminho de Hokkaido, quando de passagem por Yokohama, foi assinado o governador da Provincia de Kumamoto, de nome Yasuoka. Em vista disso, Keimeí teve que substituí-lo imediatamente.

Em Kumamoto exerceu o cargo de governador provincial durante 13 anos.

Ele deixou esse cargo em 1889. Devido aos seus serviços prestados á patria recebeu o titulo de barão; isso no ano de 1905. Numa familia assim nasceu S. Tomioka. Em 1879 diplomou-se pelo Colegio dos Nobres. Nas veias do jovem nobre corria o sangue de seu avô, de colonizador, de aventureiro. Se foi feliz ou infeliz, não se sabe, mas a verdade é que ele resolveu deixar o seu pais natal.

A maioria dos nobres que deixou o Japão foi por assim dizer exilada. O mesmo, entretanto, não se deu com Tomioka. Este resolveu ir para o estrangeiro por própria e espontânea vontade. (continua)

# O XII Campeonato Sul Americano de Atletismo será iniciado a 26 deste mês

## Formado o programa para o importante acontecimentos esportivo

A Federação Atletica Argentina elaborou e submeteu á aprovação da Confederação Brasileira de Desportos o programa para a disputa do XII Campeonato Sul Americano de Atletismo, que se desenvolverá na Capital portenha de 26 do corrente a 4 de maio vindouro.

O programa foi julgado satisfatorio pela maxima entidade esportiva nacional, tanto que, nesse sentido, foi enviada á entidade argentina a resposta da C. B. D. concordando plenamente com o mesmo.

Está, assim, organizado o programa proposto:

### PRIMEIRO DIA — SABADO, 26 DE ABRIL

- 1.º — Cerimonia inaugural.
- 2.º — 100 metros rasos — preliminares, homens.
- 3.º — 100 metros rasos — preliminares, moças.
- 4.º — 110 metros com barreiras — preliminares.
- 5.º — Lançamento do dardo — homens.
- 6.º — Lançamento do peso — moças.
- 7.º — 400 metros rasos — preliminares.
- 8.º — 5.000 metros.

### SEGUNDO DIA — DOMINGO, 27 DE ABRIL

- 1.º — Lançamento do peso — homens.
- 2.º — Salto em altura — homens.
- 3.º — 100 metros rasos — homens, final.
- 4.º — 110 metros com barreiras — homens, final.
- 5.º — 100 metros rasos — final, moças.
- 6.º — Lançamento do dardo — moças.
- 7.º — 400 metros — final.
- 8.º — Revezamento 4x100 metros — homens, preliminares.

### TERCEIRO DIA — TERÇA-FEIRA 29 DE ABRIL

- 1.º — 200 metros rasos — homens, preliminares.
- 2.º — 200 metros rasos — moças, preliminares.
- 3.º — Lançamento do martelo.
- 4.º — Salto triplo.
- 5.º — Lançamento do disco — moças.
- 6.º — 3.000 metros por equipe.
- 7.º — Revezamento 4x100 metros

### QUARTO DIA — QUINTA-FEIRA 1 DE MAIO

- 1.º — Salto com vara.
- 2.º — 200 metros rasos — homens, final.
- 3.º — 200 metros rasos — moças, final.
- 4.º — Saida dos cross country.
- 5.º — Salto em extensão.
- 6.º — 1.500 metros rasos.
- 7.º — 400 metros com barreiras — preliminares.
- 8.º — 80 metros com barreiras — preliminares.
- 9.º — Chegada do cross country.

### QUINTO DIA — SABADO, 3 DE MAIO

- 1.º — 100 metros rasos — decatlo.
- 2.º — Salto em altura — moças.
- 3.º — Salto em extensão — decatlo.
- 4.º — Lançamento do peso — decatlo.
- 5.º — 10.000 metros rasos.
- 6.º — Salto em altura — decatlo.
- 7.º — 80 metros com barreiras — moças, final.
- 8.º — Revezamento 4x400 metros — final.
- 9.º — 400 metros rasos — decatlo.

### SEXTO DIA — DOMINGO, 4 DE MAIO

- 1.º — Lançamento do disco.
- 2.º — 100 metros com barreiras — decatlo.
- 3.º — Salto em extensão — moças.
- 4.º — Saida da maratona.
- 5.º — Lançamento do disco — decatlo.
- 6.º — 400 metros com barreiras — final.

### "Tubarões" no Atlantico

A marinha alemã está empregando navios auxiliares no Atlantico para o bloqueio da Inglaterra.

Os alemães já fizeram aviões semelhantes a tubarões, mas os navios auxiliares em questão possuem a proa semelhante a cabeça de tubarão. (Cliché na pag. japonesa).

### Semelhança

4-IV-1941

Depois dum certo tempo, mais ou menos longo, e respeitadas as disposições particulares de cada um, o discipulo chega a adquirir qualidades do mestre, o amigo, as do pai, a noiva, as do noivo, chegando, não poucas vezes, a se verificar até uma semelhança fisionômica extraordinária em ambos os consortes, casados velhos. E a gente já não viu, amudadamente, em "fitas" de cinema, o "mocinho", soldado raso, quando subia a postos de comando, imitando um seu superior rancinza?

Fala Paul Bourget: "Um sábio dum raro mérito, o sr. Espinas, explicou, assim, que toda sociedade está fundada sobre a semelhança. E eu concluí, por conta própria, que, para um homem, o domestico um animal, levá-lo a viver em sociedade consigo, não é fazer nessas relações como este animal sensu movimentos de que este possa dar conta ao reja-zê-los, é fazê-lo semelhante a si. Tinha verificado esta lei constando a analogia misteriosa de fisionomia que se estabelece entre os caçadores e seus cães, por exemplo. E constatei, tambem, que começamos, ela e eu, a empregar em nossas frases expressões análogas, ternuras quasi que as mesmas. Eu me surpreendia timbrando minhas palavras com um acento que se assemelhava ao seu, e observava nela gestos que se pareciam com os meus. Enfim, eu me tornei um quinhão de sua vida, sem que ela própria se apercebesse". Valerá por uma explicação? — S.



# O nosso comércio de cabotagem e o lugar do Brasil no mundo

Já são conhecidas as cifras do ano de 1940. Eis-las, Estado por Estado:

ESTADOS DE PROCEDENCIA E DE DESTINO	VALOR EM MIL REIS	
	Importação	Exportação
Território do Acre	—	1.097.996\$
Amazonas	17.453.364\$	19.568.503\$
Pará	19.874.152\$	39.867.760\$
Maranhão	3.155.342\$	12.450.533\$
Piauí	1.015.066\$	13.725.869\$
Ceará	9.033.993\$	77.513.855\$
Rio Grande do Norte	23.502.944\$	19.085.104\$
Paraíba	44.843.324\$	29.784.930\$
Pernambuco	128.890.679\$	178.738.449\$
Alagoas	46.726.161\$	26.070.254\$
Sergipe	8.466.593\$	17.045.756\$
Baía	36.019.045\$	130.550.693\$
Espirito Santo	438.520\$	7.055.707\$
Rio de Janeiro	5.241.019\$	1.560.767\$
Capital Federal	36.380.797\$	51.382.832\$
São Paulo	631.72.495\$	1.008.64.605\$
Paraná	1.576.798\$	19.911.618\$
Santa Catarina	29.682.145\$	42.951.299\$
Rio Grande do Sul	219.572.552\$	320.198.009\$
Mato Grosso	—	433.590\$
Total das mercadorias	631.872.495\$	1.008.644.605\$

Como se vê, S. Paulo apurou um saldo de 376.772.111\$ nas trocas internas por via marítima. É' muito maior o movimento feito por via terrestre e a diferença positiva,

a nosso favor, deve manter a mesma proporção. Assim, não será de admirar se o saldo global, no comércio com os demais Estados bra-

sileiros, se aproximar de um milhão de contos de réis.

É' uma compensação natural. Nas trocas internacionais, há estreita relação entre a balança de pagamentos e a balança comercial. Os saldos ou "deficits" que nesta se apuram correspondem a "deficits" ou saldos apurados naquela. Nas trocas internacionais, o mesmo fenômeno se verifica, sob outras modalidades, está claro: o ex-

cesso da receita sobre a despesa da União em S. Paulo, a S. Paulo deve retornar por intermédio dos saldos do comércio interno.

Há uma interferência, que precisa ser levada em conta: a das

Comércio internacional:	1939	1940
Exportação	3.044.412.070\$	2.445.093.686\$
Importação	1.982.852.921\$	2.069.730.235\$
Comércio de cabotagem:		
Exportação	817.398.301\$	1.008.644.605\$
Importação	569.964.835\$	631.872.495\$

Notando-se que faltam aí os dados relativos ao comércio por vias terrestres, de maior volume e maior valor do que o feito por cabotagem, conclui-se que S. Paulo não

trocas com os países estrangeiros.

Antes de 30, essas trocas eram muito mais intensas do que as trocas interestaduais. O desenvolvimento dos mercados internos, porém, em paralelo com o fechamento dos mercados exteriores, forçando à intensificação das tendências autárquicas, parece conduzir S. Paulo à inversão das posições: como fontes de abastecimento e centros escoadouros de mercaderia, passaremos a contar mais com os centros interiores do que com os centros estrangeiros.

Essa tendência ressalta da comparação de dados de 1939 e de 1940:

Comércio internacional:	1939	1940
Exportação	3.044.412.070\$	2.445.093.686\$
Importação	1.982.852.921\$	2.069.730.235\$
Comércio de cabotagem:		
Exportação	817.398.301\$	1.008.644.605\$
Importação	569.964.835\$	631.872.495\$

tardará a ter o seu principal movimento de trocas feito dentro de Brasil, ao contrário do que sempre vinha acontecendo.

(Folha da Manhã)

## A SIDERURGIA NO BRASIL e a imprensa chilena

O regime instituído pelo Presidente Getúlio Vargas atravessou três fases, no conceito da América Latina: a da dúvida, no recelo de que tivéssemos transplantado algum dos extremismos europeus; a da curiosidade, ante um sistema genuinamente brasileiro, e a da admiração pelos frutos colhidos sob a vigência das nossas novas instituições.

O Brasil, hoje, observado com simpatia pelos demais países ibero-americanos, é, frequentemente, entre eles, apontado como exemplo digno de imitação, nas iniciativas e nas realizações do seu Governo. Agora mesmo, "El Mercurio", o órgão chileno de reputação continental, assinala que: "A trajetória que segue a industrialização brasileira é interessante, sobretudo pelo conteúdo, pelo sentido nacional de que se reveste", e comenta: "E este é um ponto merecedor da maior atenção".

Estudando as tentativas em prol da siderurgia em diversos países, "El Mercurio" dedica larga página ao Brasil e afirma que durante o decênio do Presidente Getúlio Vargas a grande Nação atlântica avançou rapidamente no caminho da siderurgia nacional, e escreve: "Nesse período (decênio do Presidente Getúlio Vargas), a produção do ferro aumentou em 354 por cento, enquanto o aço produzido apresentou o aumento de 445 por cento. Ao passo que, até 1935, o aço laminado produzido atingiu a pouco menos de 26.000 toneladas, em 1939 essa produção atingiu a 100.000 toneladas, o que equivale a um aumento de 286 por cento".

E continua "El Mercurio": "Para assentar a base de sua siderurgia, o Brasil teve de encarar três problemas: os capitais, o carvão mineral e os transportes. Quanto ao primeiro, encontrou uma solução vantajosa. Os Estados Unidos colaboram para a construção de uma fábrica siderúrgica no Vale do Paraíba, fornecendo, a título de empréstimo, 20 milhões dos 45 milhões de dólares necessários à obra. Com referência ao carvão mineral, a produção brasileira, nos últimos dez anos, recebeu tal incremento, que quase triplicou a extração. Mas as necessidades da indústria siderúrgica nacional exigem quantidade de carvão superior à que é atualmente produzida. Para contornar essa dificuldade de val ser posto em prática um vasto plano. O coque é fabricado já com resultados satisfat-

tórios para a aplicação industrial. O transporte do ferro e do carvão até o centro da indústria siderúrgica é, por outro lado, de importância fundamental. Todavia, com as providências adotadas, as estradas de ferro Central do Brasil e Teresa Cristina asseguraram um transporte barato e eficiente para a movimentação do minério e do carvão necessário ao funcionamento da grande usina que vai ser levantada em Volta Redonda, no Vale do Paraíba".

Depois de acentuar que a si-

derurgia em alta escala trará grandes vantagens para o Brasil, sobretudo no que concerne ao seu grande plano de eletrificação, com o aproveitamento do seu potencial hidráulico, "El Mercurio" declara: "O Brasil constrói a sua indústria fundamental com elementos nacionais, antes de tudo, e aproveitando também amplamente a colaboração leal dos capitais estrangeiros. Sem xenofobias nem complacências demastadas, edifica a sua grandeza econômica".

### SEMANA ALGODOEIRA 23 a 29 de Março

#### Mercado de São Paulo

No mercado disponível, no começo da semana (24, 25) a entrega pronta e a entrega da 1.ª quinzena de Abril foram negociadas a 42\$000. O mercado esteve calmo.

A firmeza do mercado de Nova York e o fato de ter aparecido praça marítima para Abril, tornou animado o mercado, desde o dia 26. A 27 subiu para 42\$500 e a 28 para 43\$000. Sábado também continuaram os compradores.

O mercado de termo, teve pouco movimento no começo devido à pequena atividade de especuladores. Para meses próximos esteve a 41\$000 mais ou menos. Refletindo a alta de Nova York, a 26, para o mês de Maio passou a 42\$000, para o mês de Outubro a 44\$000, mas houve pouco negocio. A 27 para meses próximos, subiu para 42\$500 e para Novembro, .... 45\$000.

Houve 54.000 arrobas de registrados. A 28, para Maio, subiu a 43\$000 e para Novembro a 45\$500. Sábado, para Setembro 44\$000, para Outubro 45\$000, mostrando um preço alto não visto ultimamente. Porém, houve poucos registrados. O volume total de registro desta semana foi de 151.500 arrobas.

#### Mercado estrangeiro e Exportação

O mercado de Nova York continuou firme desde a semana

passada. Prosseguiu firmando-se mais, a 26, para Maio, 10 cents 85, voltou à baixa de princípio da semana anterior.

A 27 subiu para 10 cents 90 e a 28 para 11 cents 05 registrando o recorde do ano. Sábado, teve mais uma alta ainda, para 11 cents. 31. A inflação proveniente do auxílio à Inglaterra e do rearmamento são causas remotas desta alta, mas o motivo principal é a lei de financiamento. A lei Bankhead preconiza o financiamento de 15 cents. 87 mas o governo pensa financiar 80 ou 85 % apenas. Sendo 80 % caberá 12 cents 70, que descontadas as despesas de 1 cent. 84, ficam em 10 cents. 86.

Se não houver modificação na atitude do governo, o futuro do plano Bankhead poderá ser previsto. O índice de produção de Fevereiro dos Estados Unidos, em matéria de tecidos de algodão era 142, que representa um aumento de 20% ao índice médio de 120 do ano passado. O consumo interno do algodão foi, no mesmo mês, de 794.000 sacas, o que também representa um aumento de 20%, comparado a 662.000 sacas de igual mês do ano passado. O mercado de Nova York está, como se vê, muito firme.

A exportação do Estado, está sendo efetuada aos poucos. Há distribuição de praça também nos navios nipônicos. Terminará breve o transporte do café para os Estados Unidos, esperando-se haja então praça nos navios.

A crise nipo-norte-americana parece ter atingido uma pequena calma, pela viagem do ministro Matsuoka à Europa. O maior comprador do algodão

paullita continua sendo o Japão e Shanghai. Na linha Nova-York-Boston há navios americanos e a exportação para Canadá também está tomando vulto considerável.

#### Mercado interno e interior do Estado

Os maquinistas aceitam a entrada na máquina, mas os lavradores estão esperando a alta.

Estando o mercado de São Paulo relativamente baixo, e não se podendo fazer fixação de preço, havia apenas vendas em cobertura, mas pela alta verificada nesta semana, ha quem vendeu um pouco.

No interior do Estado, a chuva prejudicou os embarques, diminuindo portanto a entrada em São Paulo.

A 28 o estoque nos Armazéns Gerais era de 41.104 fardos, menor do que o da semana passada.

Passada a chuva aumentará a entrada. Pelo movimento atual da exportação, o estoque tenderá a aumentar.

### 何時も愉快



しかも健康的である爲には

血液を増し、體器關を丈夫にする強壯劑 トニコ・バイエル を御服用下さい

トニコ・バイエルを何時も座右に



## A industria de tintas e vernizes

Uma das industrias nacionais que maior vitalidade vem demonstrando, no ultimo decennio, é a de tintas e vernizes. Estabelecida rudimentarmente ha cerca de tres lustros, somente em 1930, alcançava cifras apreciaveis, com um total de 2.413.000 quilos, no valor de 10.000.000\$000. Já em 1939 a produção total, no país, de tintas e vernizes ascendiã a 2.737.000, com um valor de 114.229.000\$000. O aumento percentual observado nesse periodo foi consequentemente de 840 %, em peso, e em valor, de ... 1.040 %. Um dos produtos que apresentam maior expansão na sua fabricação é a de tintas de escre-

ver. Basta atentar-se para as cifras relativas à importação. Em 1929, compravam-se no estrangeiro ... 104.400 quilos dessa tinta. Em 1930, essa importação declinava para ... 60.000 quilos a produção nacional atingindo, nesse ano, 847.000 quilos. Em 1939, a importação, decia para 24.000 quilos, apesar do crescente consumo do país, pois a produção brasileira atingiu a alta cifra de 4.200 mil quilos. As tintas à água, cujo consumo no país em 1913 era de 410.000 quilos, comprados no estrangeiro, apresentam também notavel progresso no que se refere à fabricação nacional. Efectivamente em 1939, o consumo já ascendiã

a 5.540.400 quilos, sendo 5.503.400 quilos de produção nacional e ... 37.000 de procedencia estrangeira. O surto da fabricação de tintas de impressão não foi menos vigoroso. Em 1913, quando ainda não havia produção nacional, a importação atingia a 328.000 quilos. Em 1939, o produto brasileiro já alcançava 6.630.500 quilos, sendo a importação reduzida a 294.200 quilos. No que concerne aos vernizes, as cifras de importação, relativas a 1913, accusam um total de 390.000 quilos não havendo ainda produtos nacionais. Em 1939, a produção brasileira de vernizes ascendiã a ... 11.447.900 quilos, e a importação atingia a 492.000 quilos.

### Luta de longa duração

(Fatos diversos)

Para um intercambio de artistas de cinema entre o Japão e a Alemanha, o Nipon vai enviar a Berlim a "estrela" do "écran" japonês, Kinuyo Tanaka e da Alemanha irão ao Japão os artistas Werner Kraus e Emil Janings.

RIO, 2 — Falando à imprensa de Petropolis, o príncipe D. Pedro de Orleans de Bragança, declarou que o arquivo da antiga familia imperial brasileira que se acha no Castelo D'Eu na Europa e que foi doado ao governo nacional foi avaliado em 20.000 contos.

Dada a luz segura que dos varios documentos ali guardados viria jorrar sobre fatos historicos, chegaram a ser veiculadas propostas à familia imperial brasileira de varios governos para a aquisição dos documentos.

A C. B. D. está ultimando os preparativos para o embarque da delegação nacional, que vai participar do campeonato sul-americano de atletismo, que se realizará no fim deste mês, em Buenos Aires. Escolhidos os atletas e demais componentes da embaixada, a entidade do sr. Luiz Aranha trata, agora, de providenciar sobre a sua viagem para a capital platina, tendo resolvido, na 1.ª que

## O sr. Mine visitará os clubes da Mogiana filiados ao C. A. C.

Tendo terminado a época das chuvas, os meios atléticos de todas as zonas reiniciaram, com intensidade, seus exercicios.

O sr. Mine, que representou a colônia nipônica do Brasil nas Competições Atléticas do Relicário Meiji, tendo conseguido classificar-se em 3.º lugar nos 400 metros e em 6.º nos 200 metros rasos e que regressou, recentemente, ao Brasil, resolveu, a partir do próximo dia 16, visitar os oito clubes filiados ao C. A. C., da região da Mogiana, afim de instruir os atletas dessas associações.

Os clubes a serem visitados são: Igarapava, Ituveraba, Mi-

gelópolis, Guará, Cravinhos, Jaboaticabal, Barretos e Onda Verde.

O ato decorre de um pedido do governo de Massachusetts, do distrito de Sussolk, de Norte América, que ofereceu 2.500 dólares pela sua captura, o que corresponde em nossa moeda a 50.000\$000, aproximadamente.

### 50 contos de premio a quem capturar o ladrão John S. Dowd

RIO, 2 — A Delegacia de Ordem Política e Social do Estado do Rio acaba de remeter a todas as autoridades fluminenses fotografias do ladrão John S. Dowd, dos Estados Unidos da América do Norte, que se encontra em nosso país, foragido de sua pátria, onde é procurado pela justiça.

O ato decorre de um pedido do governo de Massachusetts, do distrito de Sussolk, de Norte América, que ofereceu 2.500 dólares pela sua captura, o que corresponde em nossa moeda a 50.000\$000, aproximadamente.

Impressos ? Procure a tipografia NIPPAK-SH. C. Postal 375 — Tel. 7-3395